

## 部会設立について

Society5.0 や SDGs に代表される持続可能な社会と経済発展に対する大学の役割は大きなものとなっています。特に大学院は、最先端技術の開発や高度人材の育成と、学術と産業を支える礎石としての役割が期待されています。しかし、これまで研究の深化にともない研究分野の細分化が進み、類似分野や異分野を学際的に俯瞰し、統合しながら社会発展に繋げる人材の育成が難しくなっています。この状況を改善するために、日本の大学では様々な教育プログラムが試行されてきましたが、その取り組みは未だ完成途上にあるといえます。

国立大学法人九州大学（以下、「九州大学」という。）では、これまで蓄えてきた教育・研究のノウハウを基に、先進的な大学院事業が推進されてきました。中でも、工学研究院応用化学部門を中心に形成された教員グループでは、これまでマテリアル、デバイス、システムにかかる研究による次世代の産業コアの形成に資するため、高度な最先端分子系材料科学の研究を自ら推進でき、さらに幅広い科学技術に対する俯瞰力と高度なマネジメント・リーダーシップ能力をも兼ね備えた国際的にも優れた高度専門人材の育成を、リーディングプログラムを含む博士課程教育において、産業界、福岡市、ISIT と連携しながら推進してきました。

この先駆的な活動を支えさらに発展させるため、福岡市、ISIT、九州大学では、ふくおか産学共創コンソーシアムの下に、費用の一部を企業が負担する会員制の部会を組織し、会員間の自律的な活動を促進することとしました。具体的には、会員が主体的に抽出した課題設定と九州大学教員による最先端の研究シーズを基盤に、産学官連携による課題解決を推し進め、教育活動のみならず研究活動および社会普及も展開します。これらの活動をとおして、企業等の研究者、九州大学教員、および大学院生との交流や情報交換等を活発化させ、高度な専門的知識と異分野を融合し、新たな知やエビデンスに基づく産業を作り出すことのできる高度専門人材の育成に寄与するものです。

さらには、企業とのより強力な連携体制の構築により、共同研究等を通じた産学連携活動の活性化を実現し、産学官連携による人材育成、および企業の研究開発力の向上、地域経済への波及、未来社会のニーズを見据えた基礎科学と産業の発展を図るものです。